

# 沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学統計・解析委員会

## 【現状】

### 新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（2021年12月27日-2022年1月2日）の新規陽性者数は、383人（先々週130人）でした。

沖縄本島（周辺離島を含む）における週あたりの実効再生産数(R)は2.21(95%CrI:1.86, 2.40)（図1）、このうち那覇市の実効再生産数(R)は4.47(95%CrI:2.86, 6.43)でした。また、宮古は9.10(95%CrI:6.93, 9.98)、八重山は4.79(95%CrI:0.62, 9.69)でした。

沖縄県全体における新規陽性者数の倍加時間（2倍に増加する時間）は、発症日をベースとして2.8日（95%信頼区間：2.3-3.6日）と推定されます。

### 年代別推移

年代別では、20代が125人（33%）と最多であり、30代66人（17%）、40代48人（13%）と続きます（図2）。活動性の高い20代に突出して陽性者が多く、小児と高齢者に少ないことは、これまでに流行初期に観察された傾向と同じです。

### 保健所管区別・市町村別推移

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部50人（先々週88人）、中部180人（先々週31人）、那覇市49人（先々週6人）、南部70人（先々週5人）、宮古27人（先々週0人）、八重山2人（先々週0人）でした（図3）。

北部におけるデルタ株の流行は減少していますが、置き換わるように全県的にオミクロン株の流行が始まっています。とくに、中部において急速

に感染が拡大しています。宮古、八重山においても2か月ぶりに新規の陽性者を認めており、とくに宮古では市中感染が広がっている可能性があります。

人口1万人以上の市町村別（人口10万人あたり7日間合計）では、多い順に本部町144.2、読谷村79.60、宮古島市54.1でした（図4）。

### 渡航者関連

保健所の疫学調査によると、渡航後に陽性を確認した方は6人（1.6%）（先々週1人）でした。内訳は、県外からの渡航者5人（先々週0人）、県外へ渡航した県民1人（先々週1人）でした。

### 職業と推定感染経路

保健所の疫学調査によると、先週の新規陽性者383人の職業は多い順に、医療従事者24人（6.3%）、建設業従事者16人（4.2%）、飲食店従業員15人（3.9%）、基地従業員14人（3.7%）、観光業従事者13人（3.4%）となっています。推定感染経路は、家庭69人（18%）、職場34人（9%）、会食26人（7%）と家庭以外での感染が増えています。（図5）。

### 入院患者数推移

入院患者数は、先週末（1月2日時点）で107人と1週間前の56人から倍増しています。酸素投与など中等症患者についても46人と1週間前の28人より大きく増加しています。ただし、気管挿管など重症患者は発生していません（図6）。

### 米軍基地における発生状況

米軍当局からの報告によると、先週の新規陽性者は508人（先々週131人）でした（図7）。その内訳は、多い順にキャンプハンセン247人（先々週81人）、キャンプフォスター85人（先々週5人）、嘉手納基地69人（先々週16人）となっていますが、ほぼすべての基地で新規陽性者を認めています。

### オミクロン株陽性例の発生状況

沖縄県内において、1月2日までにオミクロン株確定（ゲノム解析後）88人とL452変異株PCR陰性200人を合わせて288人のオミクロン疑い症例を認めています。とくに今月に入ってから

新規陽性者の80%以上がオミクロン株と推定され、沖縄県の流行はオミクロン株に置き換わったと考えられます。

### オミクロン株陽性例の症状

沖縄県内において、1月1日までにオミクロン株確定（ゲノム解析後）陽性と診断された64人のうち、保健所による調査で50人について症状が確認されました。調査時点において48人（96%）に何らかの症状を認めており、最多は発熱36人（72%）、次いで咳嗽（せき）29人（58%）、全身倦怠感25人（50%）と続きます。無症状は2人（4%）に過ぎませんでした（図8）。

## 【今後の見通しと対策】

沖縄県では、全県的に急速な感染拡大が始まっており、デルタ株からオミクロン株へと置き換わっています。感染の主体は20代を中心とした若者であり、家庭や職場へと拡がる要因となっています。

成人式など若者が参加するイベントも予定されており、主催者と参加者それぞれに感染予防について確認していただければと思います。とくに多人数での宴会は控えていただくか、参加者全員が直前に抗原検査キットで陰性を確認してください。検査陰性であっても症状のある方が参加しないようにしましょう。

オミクロン株であっても、基本的な感染対策が有効です。すなわち、人が集まる場所では、マスクを着用してください。公共のモノに触れたときは、こまめにアルコールなどで手を消毒してください。一緒に食事をするのは、同居する家族やパートナーなど親しい人に留めてください。そして、発熱などの症状を認める時、仕事や学校を休み、外出を自粛することは極めて重要です。

今後も増加傾向が続くものと推定し、今週の新規陽性者数は518-1,042人と見込みます。一方、

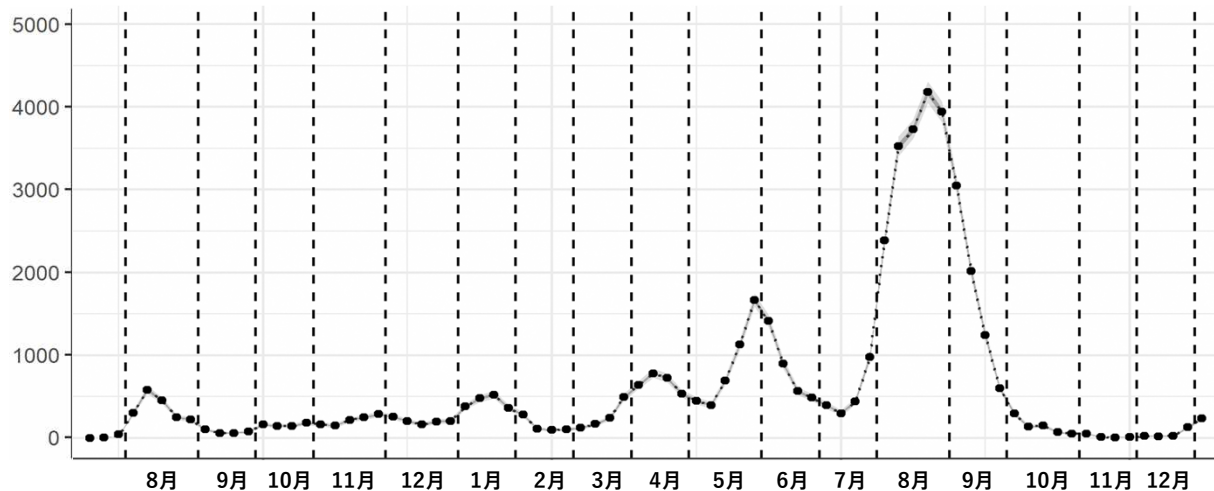
入院患者数については、従来入院判断が踏襲されるのであれば114-144人と見込みますが、オミクロン株の感染者を全例入院させる方針が維持される場合には、今週末には200人以上となる可能性があります（図9）。

# 図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

## 陽性者数 (確定日)

週あたり観察値

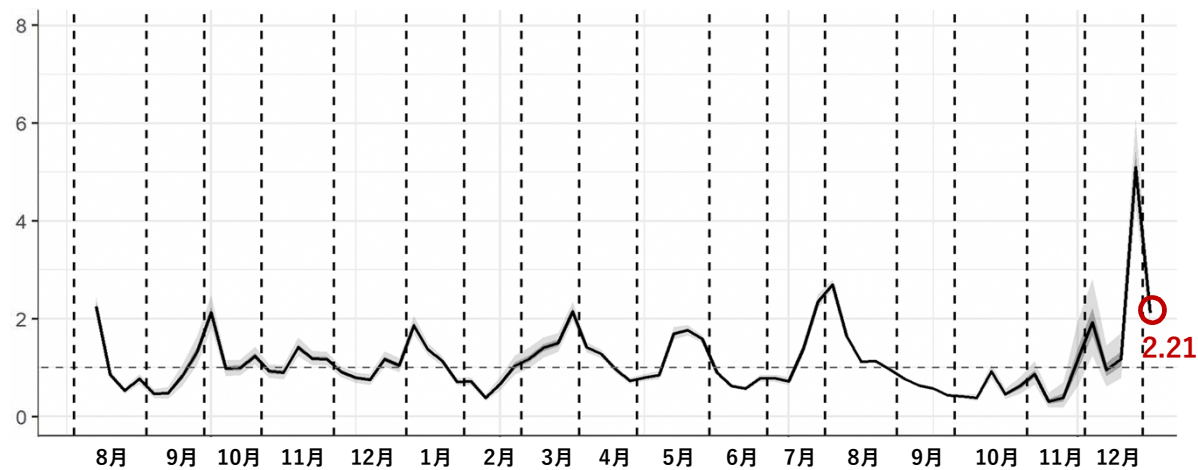
北部、中部、南部医療圏  
(宮古・八重山を除く)



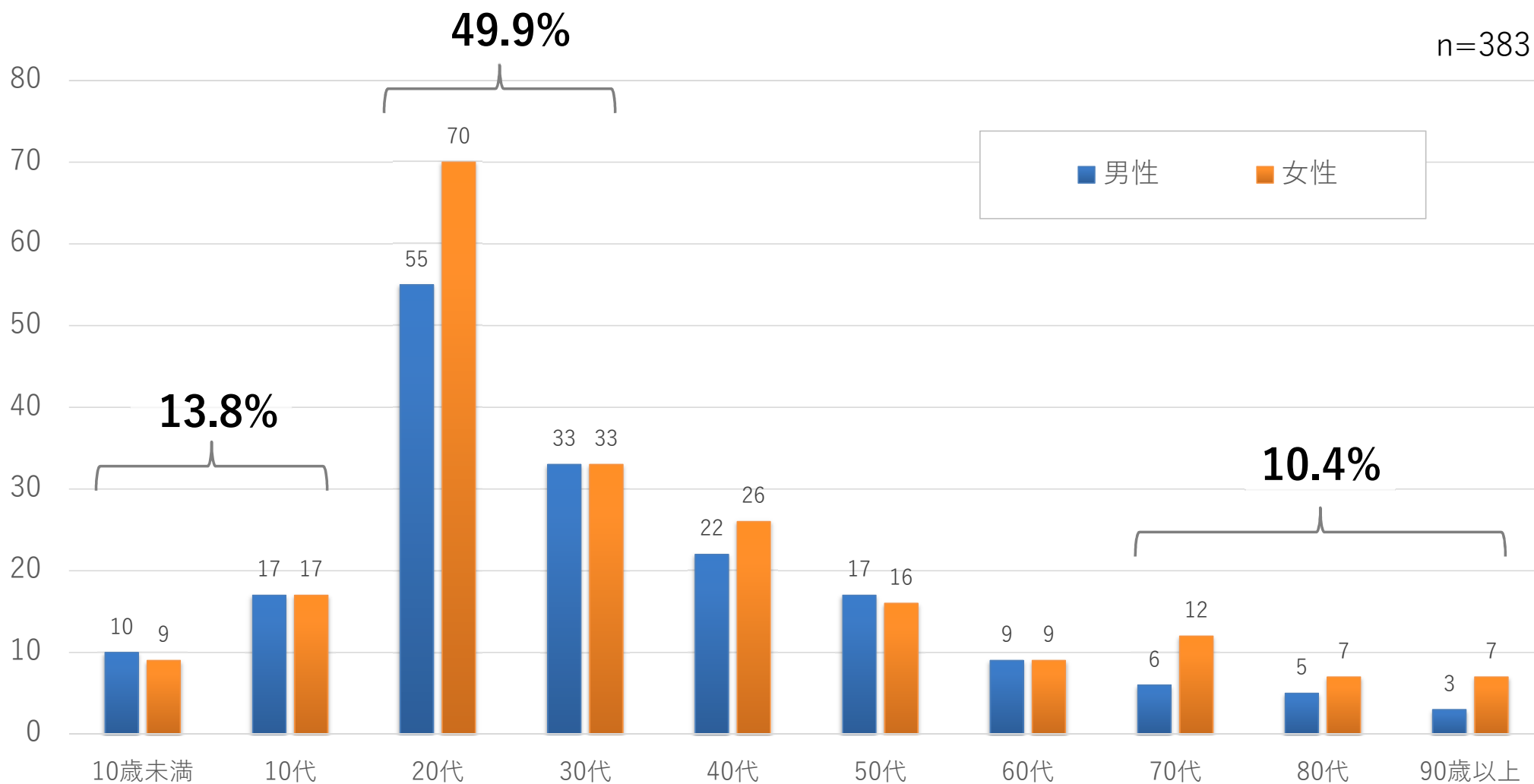
## 実効再生産数

週あたり推定値

北部、中部、南部医療圏  
(宮古・八重山を除く)

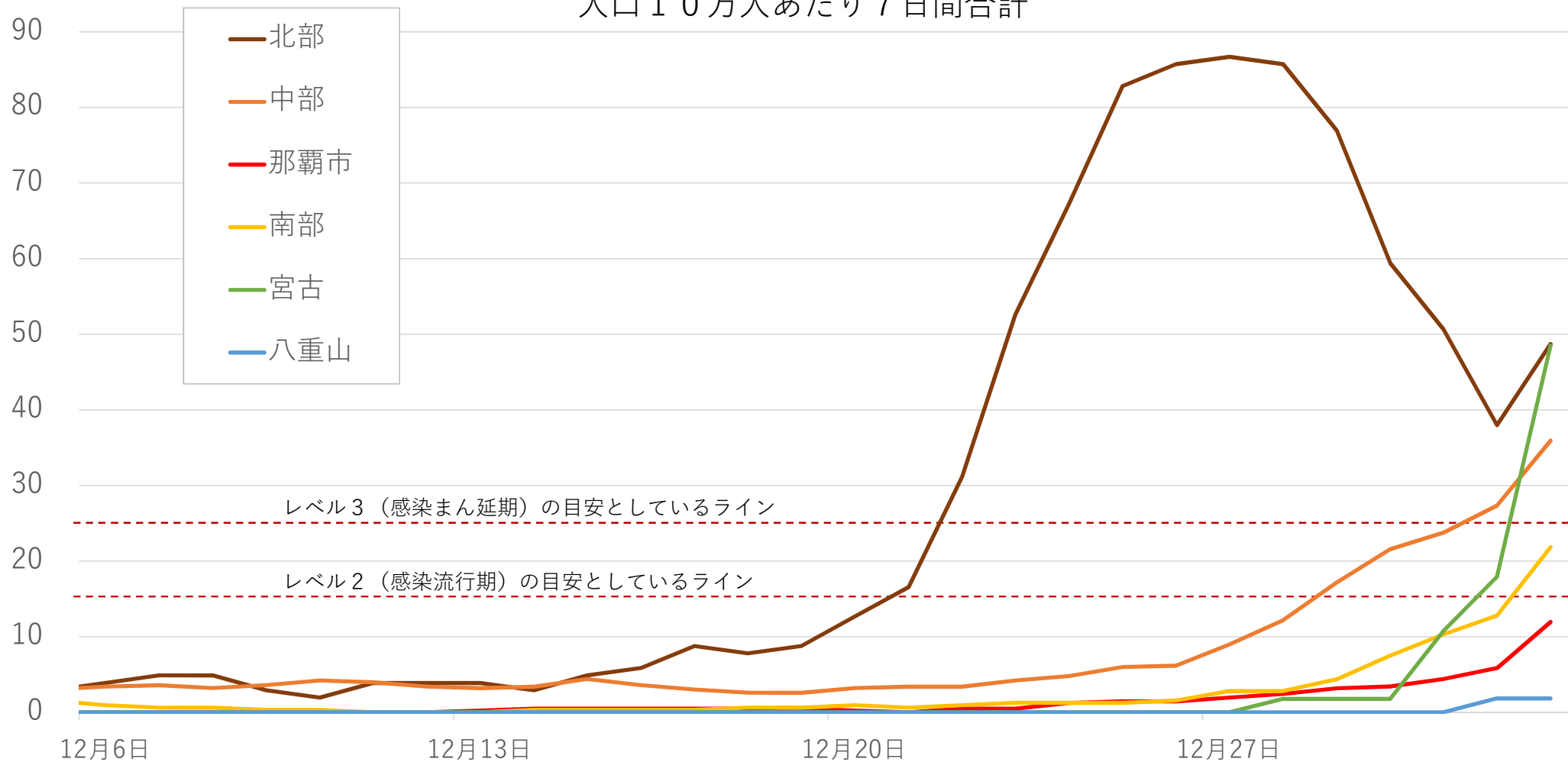


# 図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (12月27日~1月2日)

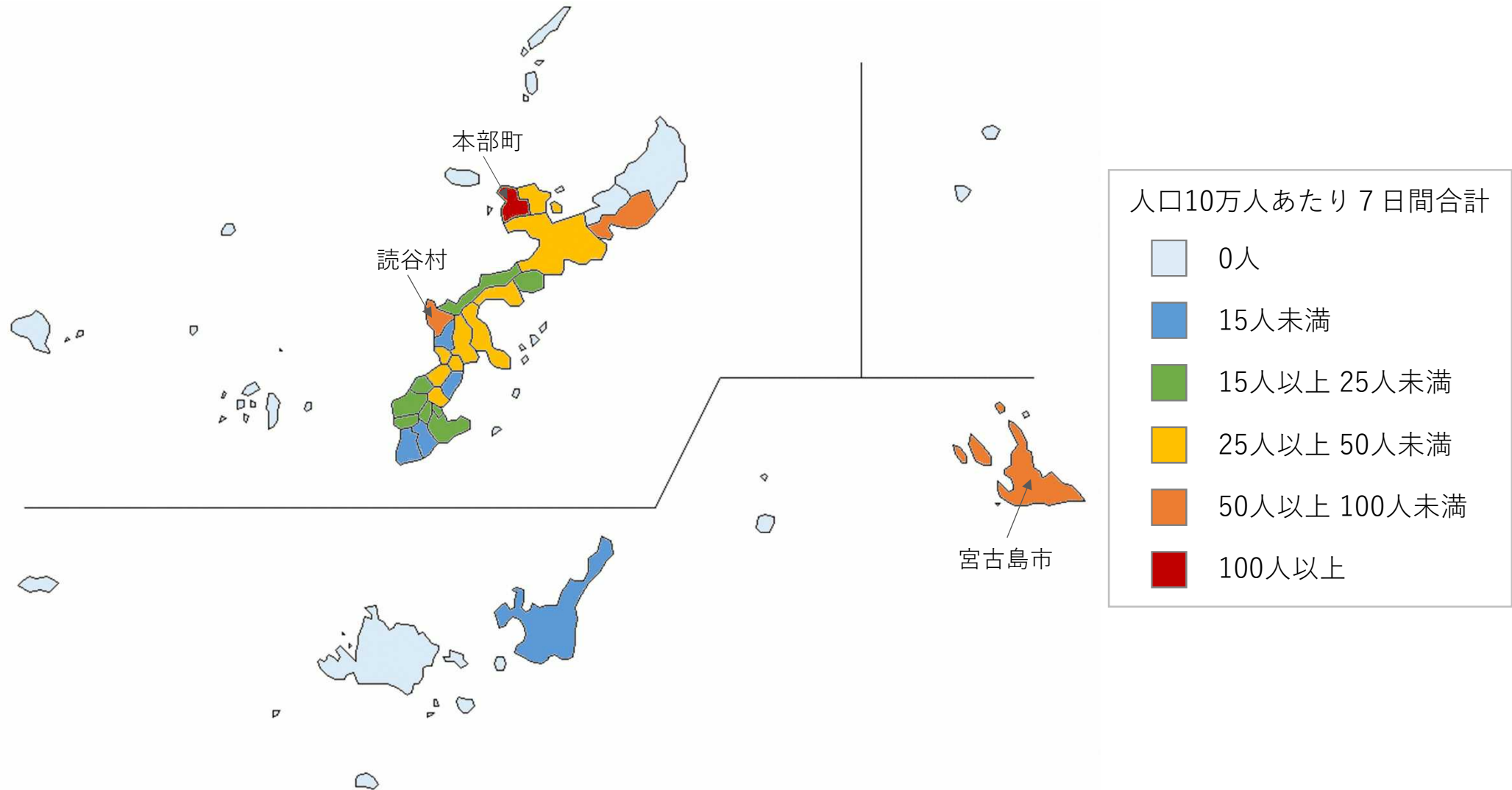


# 図3 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計



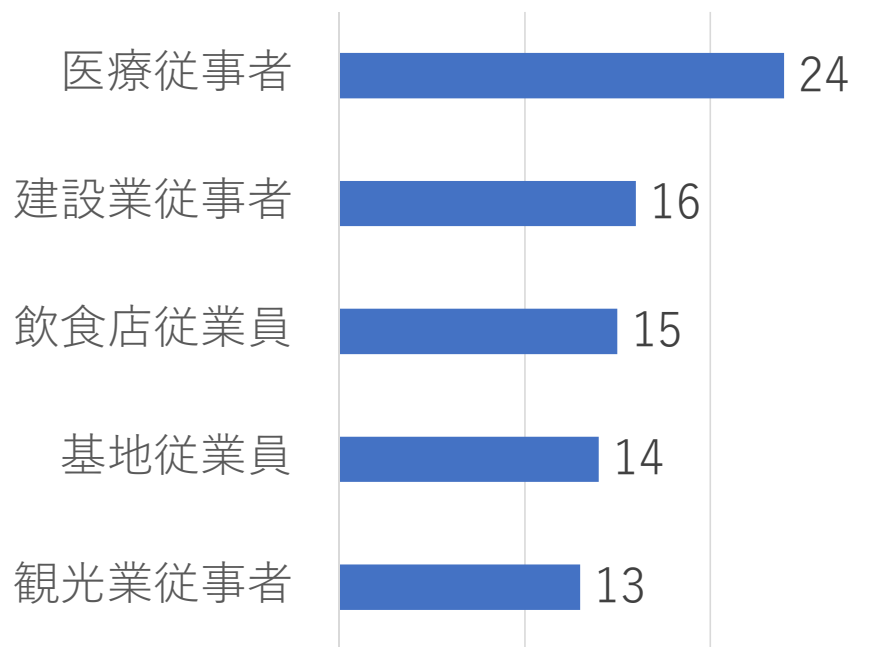
# 図4 沖縄県・市町村別ヒートマップ（12月27日～1月2日）



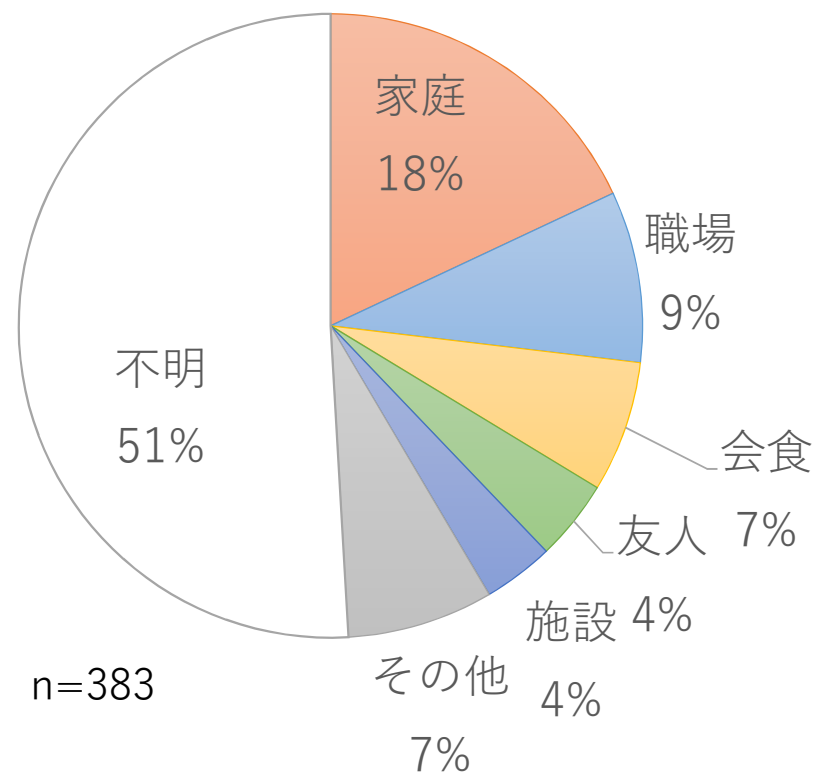
# 図5 新規陽性者の職業と推定感染経路（12月27日～1月2日）

## 新規陽性者の職業

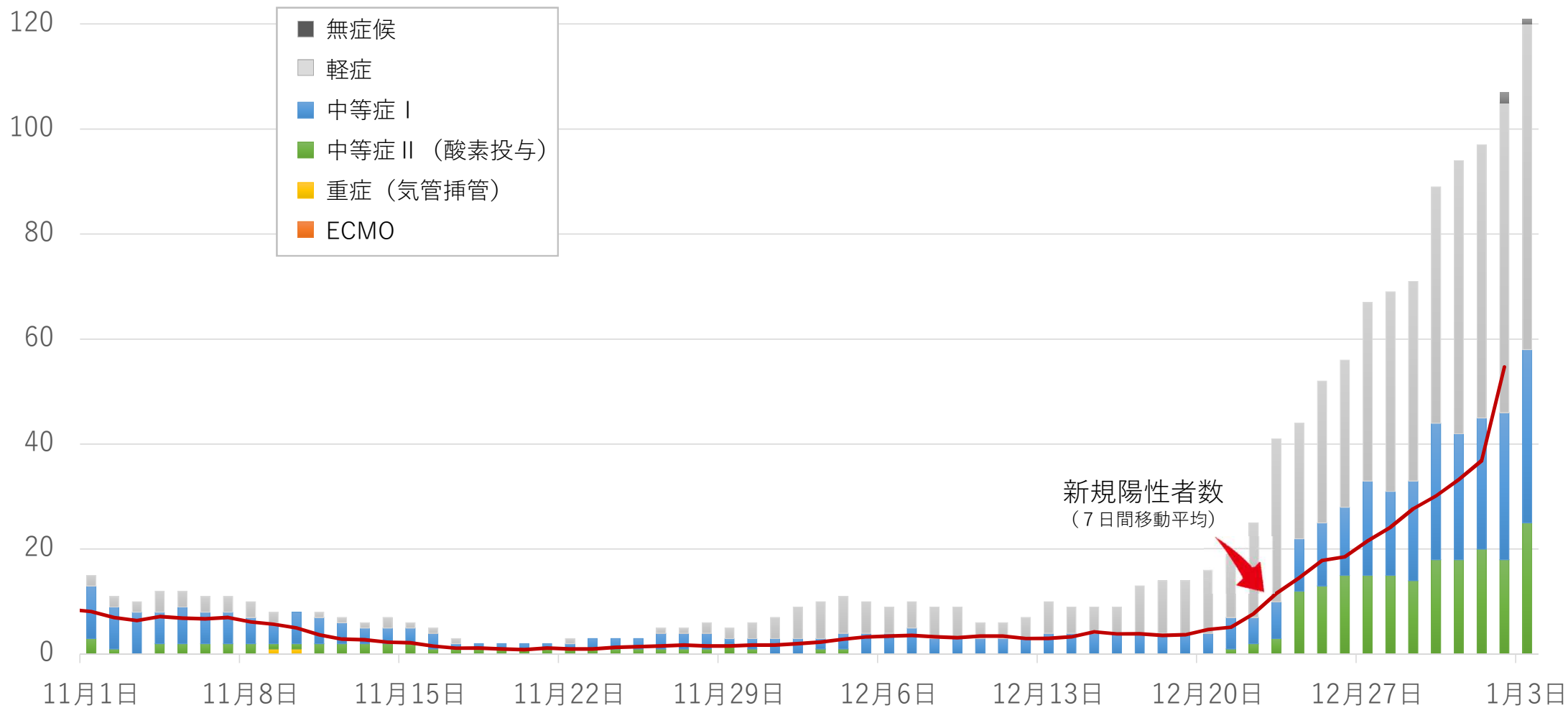
多い職種 5位まで（職場で感染したとは限らない）



## 推定感染経路



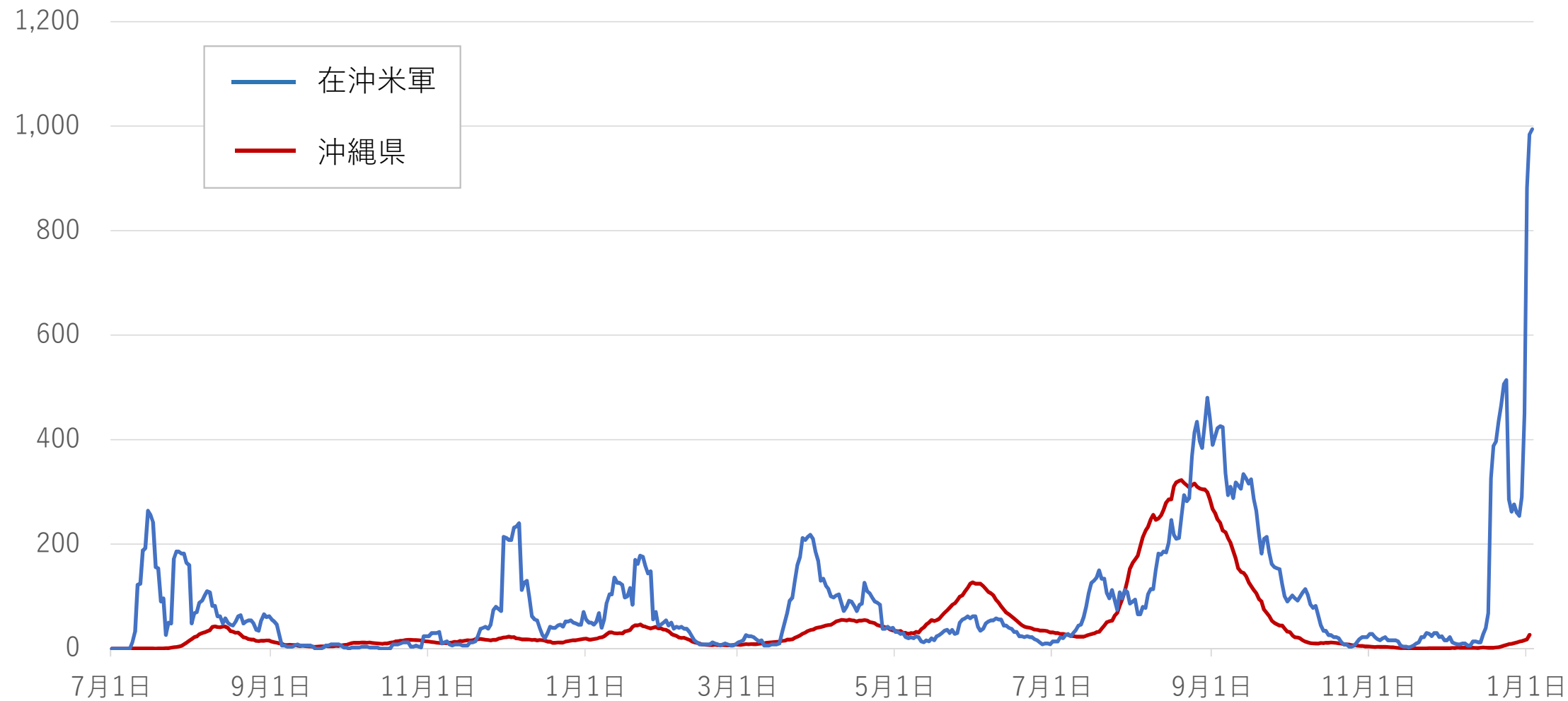
# 図 6 新規陽性者数および重症度別入院患者数





# 図7 在沖米軍と沖縄県における新規陽性者数の推移

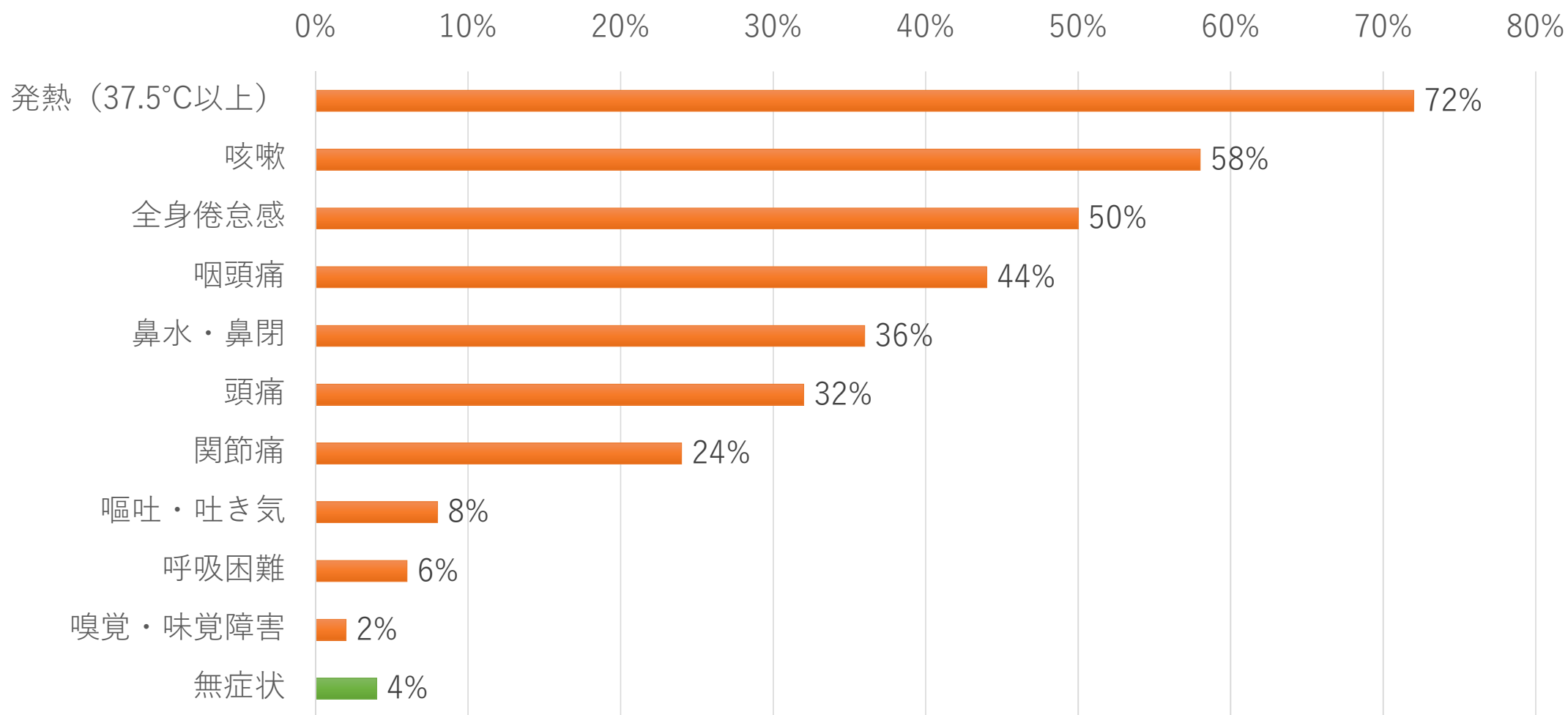
人口10万人あたりの7日間移動合計値



データは在沖米軍公表および沖縄県報告に基づく

## 図8 オミクロン株陽性者の症状

沖縄県において2022年1月2日までに診断した49人について、保健所の疫学調査に基づき集計



## 図9 今後1週間（1月3日-9日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県  
 年齢群別重症化率； 厚生労働省  
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）				入院患者数※				重症患者数※			
	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
<b>北部</b>	20	41	83	166	35	37	41	48	0.4	0.6	0.9	1.5
<b>中部</b>	69	138	278	560	33	39	49	66	0.9	1.3	1.9	3.0
<b>那覇市</b>	12	25	50	101	7	8	9	12	0.1	0.1	0.2	0.3
<b>南部</b>	20	41	83	166	8	10	12	15	0.2	0.3	0.4	0.7
<b>宮古</b>	5	10	20	41	1	1	2	2	0.0	0.1	0.1	0.1
<b>八重山</b>	1	2	4	8	1	1	1	1	0.0	0.0	0.0	0.0
<b>合計</b>	<b>128</b>	<b>257</b>	<b>518</b>	<b>1042</b>	<b>85</b>	<b>96</b>	<b>114</b>	<b>144</b>	<b>1.7</b>	<b>2.4</b>	<b>3.6</b>	<b>5.5</b>

※ 1月9日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会